

・問題

王政の廃止からペロポネソス戦争に敗れるまでのアテネの政体の変化について次の語句を使い 400 字以内で説明しなさい。

ソロン デマゴーゴス ヒippiアス ペリクレス

(筑波大)

(§^ω^§)「おみやすー！ みんな元気かおー？ 内藤ホライゾンだおー！」

(;^ω^「今回の冬コミは新刊が出せなくてすんまそん。苦情は理系担当にお願いするおwww」

(^ω^「とりあえずおまけペーパーだけは平常運転で行きたいところ。
んじゃ今回もサクッと入試問題を解いてみるおっおっ！」

~~~~~

(^ω^「さて、まずは設問確認から！ えーっと、今回の問題は……………」

(\*^ω^「アテネの歴史についての初歩的なことしか聞かれてないお！ こりゃ楽勝楽……………」

(;^ω^「って、400 字以内！？ こりゃ字数を気にしないと大変だおwww書ききれナスwww」

(;^ω^「うーん、そうすると**アテネの政体に関する**ことだけをキチンと書かないと厳しいお。  
とりあえず必要な情報を書き出して、上手いことまとめるしかない感じだお」

~~~~~

(*^ω^「それじゃまずは『ギリシア・ローマ編』の 24 ページを開いてほしいお！
今回はこの表に書かれている内容をまとめる作業になります」

(^ω^「アテネの政体は色々移り変わったけど、このページの内容を総合すると……………」

(①王政) → ②貴族政 → ③財産政 → ④僭主政 → ⑤民主政 → ⑥衆愚政

(^ω^「こうなっていることがわかりますおー。
ということは、上記の流れが**なぜ起こったのか**を書けば解答になっちゃうんだお！」

~~~~~

②貴族政 → ③財産政

(^ω^「貴族政が財産政になったのはソロンの改革によるものです NE!!」

(;^ω^「これは**有産市民が重装歩兵として活躍したのが原因**だったはず。  
商工業とか貿易の発達によるものだった事を思い出して欲しいお！」

### ③財産政 → ④僭主政

( ^ω^ ) 「これはソロンの改革が中途半端だったことに市民が不満を持っていたからだお。  
とりあえず市民間の対立が深まったって書いておくおー」

### ④僭主政 → ⑤民主政

( ;^ω^ ) 「ペイストラトスの息子ヒippiアスは、僭主だったんだけど色々あって追放されたおw」

( ^ω^ ) 「んで民主政へと移り変わっていくけれど、これは一応 2 段階に分かれます。  
まずはクレステネスの改革の**陶片追放**で僭主政が禁止されたことを書いて……」

( \*^ω^ ) 「そして**ペルシア戦争**で勝利した影響も大きかったでそ？  
ペリクレスがデロス同盟から資金を横領してwwwwwwパルテノン神殿うめえwwwwww」

### ⑤民主政 → ⑥衆愚政

( ^ω^ ) 「てな訳で、いちおう**成年男子だけの民主政**は完成しましたお！ wwwwww」

( \^ω^ ) 「でもすぐに衆愚政治になって、**デマゴーゴス**が出現して、  
ペロポネソス戦争に負けて……………人生オワタ……………」

>>1 の解答

王政廃止後のアテネは貴族が政治を独占する貴族政であった。だが商工業の発達で富裕となった市民の地位が向上すると、彼らは参政権を求めて貴族と対立した。このためまずドラコンの立法により法律が成文化された後、ソロンの改革によって債務奴隷を禁止しつつ、財産の多寡で参政権を認める財産政を採用した。しかしこれは市民間の対立を招いたため、ペイストラトスによって僭主政が敷かれた。だが彼の後を継いだヒippiアスは暴君化したので、クレステネスは陶片追放を導入し僭主政を禁止した。またこの改革で伝統的な部族制が解体されたため、その後の民主政の基盤が築かれた。その後ペルシア戦争を機に無産市民の地位も上昇すると、ペリクレスはデロス同盟の資金を流用して彼らの参政権を認め、成年男子による民主政が完成した。だがこの民主政は次第に衆愚政治に墮落し、最後にはデマゴーゴスが登場してペロポネソス戦争に敗北することとなった。(396 字)

( ^ω^ ) 「そうして完成したのがこちらの解答！」

( ;^ω^ ) 「いやー、めんどくさかった。  
正直な話、>>1 は字数をしぼる問題が昔っから苦手だったりします」

( \^ω^ ) 「だって血縁的な財産政治と地縁的な財産政治の違いとか語りたいじゃん。  
重装騎兵・重装歩兵・海軍水兵の違いとか語りたいじゃん……………余白が足りないお」

( ^ω^ ) 「まー、愚痴ってもしようがないしとりあえず今回はここまでということで。  
それでは次回こそお楽しみに！ ばいばいおー！」